

文化財 せんだい



No. 137

令和5年(2023年)11月発行
仙台市教育委員会文化財課

仙台市青葉区上杉一丁目5-12

上杉分庁舎 10階

〒980-0011 Tel:022-214-8893

仙台市文化財課

検索

発掘調査速報①

飛鳥時代の役所跡を調査!～郡山遺跡～

郡山遺跡は太白区郡山にあります。現在は、高層マンションの建ち並ぶJR長町駅から歩いて10分ほどのこの場所には、今からおよそ1400年前に造られた飛鳥から奈良時代にかけての官衙(役所)がありました。この郡山遺跡は多賀城が造られる前の陸奥国府と考えられており、遺跡の中心部は平成18年に国史跡に指定されています。

今年度は、今後の史跡整備に向けて、官衙の中心部分の発掘調査を行いました。

調査では南北方向に並ぶ柱穴の跡が2箇所で見られました。これらは昨年度の調査で確認されていた建物跡の一部で、それぞれ調査区の外側に続いており、東西18.2～18.5m、南北は約5.0mの大きさであったと考えられます。この2棟の建物は柱の方向や規模等、共通点を持っていることから、計画的に建てられ、同時に存在していたと考えられます。



発掘調査区と周辺のまちなみ



調査区の全体と発見された建物跡

色鮮やかに! 華やかに!

史跡・遺跡のうち重要なものを
国や地方自治体が指定したもの

郡山中学校の北側にある郡山遺跡の史跡地内で、東長町小学校6年生と郡山中学校ボランティア委員の皆さんが、花の苗を植える活動を行いました。近くに郡山廃寺が存在したことにちなんで蓮華文(お寺の瓦の模様)と「こおりやま」の文字アートを作成しました。児童生徒の皆さんは、歴史ある郡山を大切に守り、その存在を多くの方々に知っていただきたいと、心を込めて作業に取り組みました。

当課では、郡山中学校内にある遺跡保存コーナーの見学や郡山遺跡内を散策するガイドツアーを大好評実施中です! 魅力的な歴史がたくさんつまんだ郡山で楽しく学習してみませんか? ご希望の際はお気軽にお問合せください!!



蓮華文 & 文字アートが完成!



バランスを意識し、心をこめて植えました!

発掘調査速報②

古代の瓦の工場？ ～穴田東窯跡～

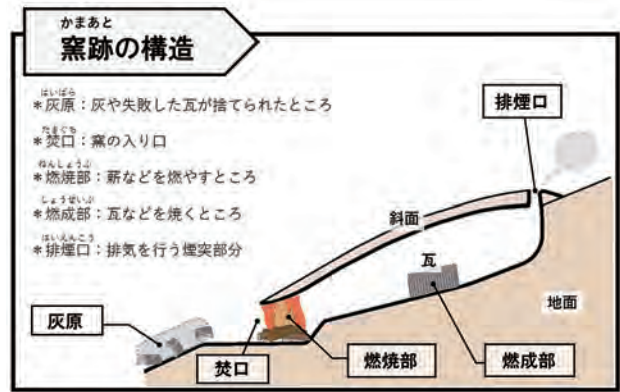
穴田東窯跡は、JR北仙台駅から北東に約0.8km離れた台原・小田原丘陵の南側斜面にある、9世紀後半の遺跡です。これまでの調査で、瓦をつくっていた窯跡や焼き損じた瓦等を捨てた灰原が発見されています。

遺構からは丸瓦や平瓦のほか、窯跡の壁とみられる片面が焼けた粘土塊や灰など、窯跡に関連する遺物が多く出土しています。

窯は、台地の斜面を掘りこんでつくられた施設で、穴田東窯跡で見られる窯跡は下図のような“半地下式”とよばれる構造をしていたと考えられます。窯跡から出土する瓦などから、いつの時代につくられ、また、どこで使われたのかなどをうかがうことができます。



〈出土した平瓦(上段)、丸瓦(下段左)や粘土塊(下段右)〉



〈窯跡模式図〉

発掘調査速報③

クイズに挑戦 2枚の写真から推理せよ!～南小泉遺跡～

下の2枚の写真は、若林区南小泉にある南小泉遺跡の発掘調査現場の様子です。この場所からは約1500～1100年前(古墳時代～平安時代)と考えられる痕跡が見つかっています。写真を手掛かりにして、ここが昔どのような場所だったのか3つの選択肢から選んでください。

A 水田跡

B 竪穴住居(昔の人の家)跡

C 古墳(昔のお墓)

写真① 調査現場の全体の様子



赤線の範囲と、中にあるモノに注目!

写真② 調査現場で見られた壁の様子



赤い線が当時の地面。下がった場所に注目!

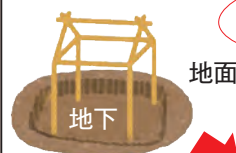
正解はB 竪穴住居跡

です。

【竪穴住居とわかる理由】

《写真①》…黒い土が赤線で示したように四角い範囲で見えます。その中を掘り下げると甕や皿の土器片が出土していることから、人が生活していたことがわかります。

《写真②》…写真の地層で見ると一段下がったように見えます。住居は、右のイラストのように周囲の地面から一段掘り下げて、床面を作っています。



今回取り上げた南小泉遺跡の詳細はこちら! (文化財課HP)



デジタル時代の
「新しい学びのカタチ」

VRで仙台城跡を擬似登城!?

今年度、文化財課では国史跡である仙台城跡のVR教材を作成しました。現地に行かずとも、情報端末を操作しながら巽(たつみ)門(もん)ルートからの登城を実感できる仕様となっています。

VR教材は、仙台市内の学校現場への出前授業の際に、「仙台城のすごさは何だろう?」という学習課題のもと、児童・生徒の調べ学習の機会として活用しています。「曲がり道が多いのは守りを意識しているからだ!」「こんな大きな石を昔の人はどうやって運んだのかな?」など、実感を伴った理解、そして新たな探究課題の発見につながっています。

夏に開催した文化財展では、ご来場いただいた皆様にも体験していただきました。市内外の幅広い年齢層の方々から貴重なご助言をいただき、現在VR教材のブラッシュアップに努めています。

テクノロジーの進化に伴い、文化財へのかかわり方も広がりを見せております。文化財課では、デジタル技術を活用した発掘調査の実施と、教材の作成・運用を一層推進すべく、日々研究に取り組んでおりますので、今後の動向にどうぞご期待ください。

なお、仙台城跡VRは、今年度中にホームページ等を通じて公開予定です。



学ぶ主役はわたしたち
☆大人も子供もカンケイなし♪♪



伝統を受け継ぐ！～大沢田植踊保存会の皆さんにインタビュー～

仙台市には23の民俗芸能が伝わっています。民俗芸能と言われると、難しく、堅苦しいイメージを抱く方もいるのではないのでしょうか。地域の伝統文化を受け継ぎ、未来へとつなぐ人々の素顔に迫ります。

今回は、泉区の大沢地区に伝わる、大沢の田植踊保存会のメンバーにお話を伺いました。



早乙女(さおとめ)役を務めている、西根ひなのです。私に通う小学校では、学習発表会で大沢の田植踊を披露します。初めてだったから、踊れるか心配だったけど、保存会のみなさんが優しく教えてくれたし、お衣装もきれいだから、もっと続けたくて、保存会の練習に参加することにしました。最初は扇子もうまく開けなかったけど、できないところも教えてもらえるから、練習は楽しいです。今は保存会のお姉さんたちみたいに、きれいに踊るのが目標です。

弥十郎(やんじゅうろう)役を務めている保存会会長の寺嶋です。大沢の田植踊は、仙台藩主である伊達家ともゆかりが深い田植踊です。保存会のメンバーは35人。元々は成人男性だけで踊っていましたが、今は女性や小中学生もたくさん参加してくれています。若い世代は進学や就職で大沢地区を離れることもあるかもしれないけれど、参加してくれている間は楽しいと思ってもらえるように、みんなで仲良く活動に取り組みたいです。



大沢の田植踊を見に行こう！ 第36回民俗芸能のつどい

日付：令和6年2月10日 会場：日立システムズホール(シアターホール)

※詳細は市政だより2月号などでお知らせします。お楽しみに！

第2回 文化財課職員高橋純平さんが語る！～丘陵上につくられた古代の集落～

文化財課の職員として9年目になる私が紹介する遺跡は、宮城野区岩切にある「^{はぐるまえいせき}羽黒前遺跡」です。この遺跡は利府町と仙台市に跨る丘陵上^{またが}に位置しており、令和3・4年度に発掘調査を行いました。調査面積は合計10,000㎡で、私が担当した中でも最大規模の調査となりました。調査を行うと、8世紀末から9世紀前半の竪穴住居跡が30軒以上も見つかり、この場所に古代の集落があったことがわかりました。また、瓦など通常の集落ではみられない遺物が出土していることから、遺跡の東に位置する多賀城との関係がうかがえます。羽黒前遺跡の内容については、調査前には中世から近世の城館跡や宗教遺跡とみられていましたが、実際は古代の集落であったことがわかり、発掘調査によって本来の姿を初めて明らかにすることができました。



羽黒前遺跡で確認された集落跡(南から)
丘陵の斜面に竪穴住居が作られていました。



竪穴住居跡(西から)
風化や崩落などにより南側(写真の右側)は
遺構が無くなっています。